

見る力と伝える力を高める授業実践
小学3年生（重複Ⅱ課程）

実態把握から目標設定へ

<個別の指導計画 自立活動 重点目標>

- ①話しかけられている人やものに気づき、見続けることができる対象や時間を増やす。
- ②要求の手段を増やす。
- ③歩行可能な距離を伸ばしたり、足裏全体に体重を乗せて立位を保持したりする。

<スコア8 目指す段階>

言葉への応答、物を介したやりとりの芽ばえ、音声や身振りによる働きかけ、数量への注目、活動と結果のつながりへの気づき、探索的操作、姿勢の保持・変換

<スコア12 目指す段階>

言語指示への応答、相互的なやりとりの拡大、発語、数量への対応、活動と結果のつながりの理解、手指の巧緻性、移動

<参考文献>

「障害の重い子どもの
目標設定ガイド」
徳永豊 著



<児童の実態> 三重県立子ども身心発達医療センターに入院中 脳性運動障害 移動機能障害 ファロー四徴症 独歩が可能だが、段差や危険回避は難しい。側弯進行予防のため、体幹装具使用。足裏が外反しやすく靴型装具使用。味覚過敏、触覚過敏のため経口摂食が難しく、胃婁による経管栄養摂取。発語はないが、高い声の発声がある。聴覚、触覚優位で、注視や追視が難しい。左利きのため、2択の時には左側を取ることが多い。自己刺激を好み、常に指先で固い物をカリカリとひっかくように触れている。童謡などの音楽を好み、音の出る絵本やキーボードに触れながら音を聞いて遊ぶ。

<学習到達度チェックリストを使用した国数の実態と指導目標>

【国語】

(聞くこと)スコア6~8 スコア12~18にも△あり
(話すこと)スコア8 スコア12以上は発語がないため難しい
(読むこと)スコア6 スコア8~12に△あり
(書くこと)スコア8 スコア12に△あり

指導目標

- ・身近な人の働きかけに注目したり、応じたりすることができる
- ・言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりする
- ・読み聞かせを通して、示された身近な事物や動物に気づき、注目することができる



【算数】

(数と計算)スコア6~8 スコア12にも△あり
(量と測定)スコア8~12 スコア18にも△あり
(図形)スコア8 スコア12にも△あり

指導目標

- ・対象物の存在に気づいて、注目し、つかむことができる
- ・身の回りのものの上下や前後、形の違いに気づき、違いに応じて関わる
- ・目の前で隠されたものを探す



<専門家・関連機関との連携> 訓練見学・センターサポート・カンファレンス等で実態把握や指導の工夫等について相談、情報共有をおこなう

センターサポート(PT)

- ①側弯の進行の防止
腰や体側のストレッチをおこなう
- ②足裏全体に体重を乗せて立位を保持
かかとを上げて立つ支援をおこなう



センターサポート(OT)

- ①シーティング
座位保持椅子にお尻を奥まで入れて腰がゆがまないように気をつけ、腰に近い位置でベルトをして、前に机をつけることで前傾姿勢になり、骨盤が立つ

②手指の巧緻性

プットイン教材では、右手に容器を持たせたり、ファスナーの操作では、右手でケースを押さえたりすることで、両手を使うようになり、右手で触れることで操作する対象物を注目しやすくなった

センターサポート(ST)

- ②感覚過敏について
①カード選択
新しい活動を入れるときは最初から2択にせず、まずは1枚のカードでその活動に結びつくようにしてから、他のカードを加えて選ばせる

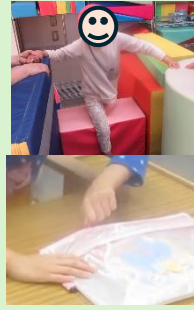
柔らかい物やソフトタッチは苦手でも、固い物や強い刺激は好きなので、過敏があるがスキンシップをおこなって、強い刺激を入れたほうが楽しめる

【自立活動のとりくみ】

「立位保持」「ブロックまたぎ」
「階段昇降」
斜めの台の上にも立ったり、
片足立ちをしたりして、足の
裏全体が床に着くようにした。



「ファスナーのつまみをひっぱる」
「洗濯ばさみはずし」
右手でケースを押さえたり、小さ
なつまみをつまんで引っぱったり、
ピンチ動作(親指と人差し指では
さむ)ができるようになり、手指の
巧緻性の機能が高まった。



【国語のとりくみ】

「絵本の読み聞かせ」
教員と一緒にページをめくったり、
絵本に出てくる具体物に注目して
触れたり、VOCA を押して音を聞
いたりすることができた。



「カード選択」
カードに注目することが難しかっ
たが、好きな音の出る絵本のカー
ドは、よく見て利き手と反対側に
提示しても取ることができるよう
になった。
教員の「ちょうだい」の声かけで
手の上におけるようになった。



【算数のとりくみ】

「○△□」
○と△、○と□をどのように
提示しても○を選ぶことがで
きた。
「プットイン」
ボールを入れ口の狭い容器
でも、右手に持たせると、見て
左手で入れることができた。
「ものを重ねる」
入れ子やプラスチックの皿を
右手に持たせると、左手でも
う片方を上に乗せることがで
きるようになった。



見る力と伝える力で成長したこと

①見る力

<指導の工夫>

①光る素材の活用

教材に注目することが難しかったが、「キラキラ
絵本」を用いたり、プットイン教材の入れ口にキ
ラキラテープを貼ったりすることで注目できる
ことが増えた。

②音の出る教材の活用

聴覚優位で音楽を好むので、VOCA や音の出
る教材を使用すると、注視や追視もできる。

③触覚の活用

プットインなどでは、容器を腕にトントンと当て
たり、右手で持たせたりすると、見て入れるこ
とができた。

しかけ絵本などを教員と一緒に動かすことで、
イラストを見ることができた。



②伝える力

①教員の手タッチする

トランポリンやスイングなどの遊具が好きなので、
一度動きを止めて、「もう一度したい人？」の問い
かけとともに教員が手を差し出すと、タッチして
やりたい気持ちを伝えられた。手を左右上下に場
所を変えて提示しても手を伸ばしてタッチできた。

②写真カードの選択と手渡し

最初はカードを見ないで、利き手(左手)側のカー
ドをとっていたが、好きな物と興味のない物を使
って繰り返し練習すると好きな物のカードが利き
手と反対側にあっても見て取ることができるよう
になった。トランポリンでもカードを使用すると、
教員に手渡して伝えることができるようになった。



今後の課題

①コミュニケーションの課題

★嫌な時の意思表示の確立

×のカードにタッチすることで
「終わりたい、したくない」を
表現できるように練習する

★「したい」という意思表示をさらに引き出す

カードを使用して「したい」という意思表出
をする活動の場面の設定を増やしていく

②目と手の協応の課題

★両手を使った物の操作

利き手(左手)しか使わないことが多いので
両手を使わないとできない活動を取り入れる
手元を見ないとできない活動を取り入れる